

# 大きさをなんて関係ない! ?

## 小さな化石の研究者が

## 大きなクジラの化石を発掘しました

話題提供 **山田 桂** さん (信州大学理学部理学科地球学コース教授)

日 時 **2月15日(土)** 午後1時30分~3時30分(予定)

会 場 **あがたの森文化会館 講堂・第一会議室** 参加費 200円

※ 電話での事前申し込みが必要です

私は、貝形虫(かいけいちゅう)という生き物の化石を研究している古生物学者です。貝形虫は甲殻類の仲間、カイミジンコや貝虫類などと呼ばれることもあります。体長は1mm以下と小さく、顕微鏡で覗かないと見えません。小さいということはあまり力のない私にはとても有り難く、小さな化石の研究者に女性が多いのはそのためかもしれません。

ところが、数年前に秋田県能代市の山の中で、推定体長16mのクジラの化石を発見し、なぜかこの化石の発掘を主体となって行うことになりました。どちらも「化石」なのですが、大きさが異なれば、調査方法、発掘のアプローチの仕方、そしてかかる費用など全く違い、大変戸惑いました。そもそもクジラの化石が見つかること自体珍しい上に、これほど大きな化石の発掘に関わった研究者がなかなか見つかりませんでした。長さ4m、重さ1.5トンを超える化石をどうやって地層から運び出すのか、費用はどうするのか、試行錯誤しながら進める日々でしたが、その時に助けてくださったのは、信州大学のある長野県の皆様と信大卒業生、化石が発見された地元能代市二ツ井町の方々でした。

今回のサロンでは、この能代市で発見された大きなクジラ化石について、発見の経緯や発掘の状況なども交えてお話しします。もしかしたら、実物をご覧いただけるかもしれません。

山田桂(やまだ・かつら)さんは1975年、愛知県生まれ。筑波大学大学院地球科学研究科博士課程を修了後、金沢大学、島根大学を経て、2005年4月から信州大学理学部地質科学科に。専門は古生物学。化石を使って過去の地球の気候変動や古環境を明らかにする研究を行っている。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎35-6226 FAX 33-9986